

機関誌『医学教育』*1

尾 島 昭 次*2

1. 委員会の構成と経緯

創刊以来25年間担当された鈴木淳一前編集委員長から、畑尾正彦副委員長とともに、機関誌『医学教育』を25巻2号(1994年)より引き継ぎ、28巻6号(97年)まで発行した。

94~96年の第11期は、運営委員16名と幹事1名で構成され、牛場大蔵名誉会長、中川米造前副委員長、鈴木淳一前委員長を顧問に推戴しスタートした。97年の第12期からは、運営委員の委員を22名に増加、神津忠彦氏にも副委員長を依頼した。堀原一新会長にも顧問をお願いし、97年9月30日、中川氏のご逝去により顧問は現在3名である。

2. 編集・発行の仕組み

日本医学教育学会機関誌『医学教育』発行に関する契約書に、学会を甲、篠原出版株式会社を乙とし、甲は雑誌の編集・発行人とし、乙は製作・発売人と規定されている。

編集は甲の任命した委員が行い、乙は編集会議に出席し、編集・企画などにつき提案することができる。甲は乙と契約した金額(単価×部数)を乙に製作代として支払い、乙はそれを雑誌発行に係る諸経費(雑誌の製作費・製作人件費・原稿料・英文校閲料)に充当し、不足額、その他の経費を負担する。契約部数以外の売り上げ収入は、販売価格×20%相当額を編集著作権料として乙が甲に支払い、残りは乙に帰属する。その他の細部は

省略。

編集事務局：篠原出版株式会社の山田 耕編集部長はこの4年間不変である。機関誌『医学教育』担当は橋本治子、竹下久美、藤本亨子、伊藤和子、元井真奈美と引き継がれているが、各巻5号(大会号)を除き所定の期日に遅れることなく発行されている。

3. 機関誌の概要

基本的には鈴木前編集委員長の方針を引き継ぎ、B5判で、偶数月の25日を発行予定日とし、実際にはその1か月前に、本文64頁を原則として発行している。

投稿には原著*、総説*、論壇*、報告*、学生のページ*、機関会員のページ(28巻3号から復活)、アナウンスメント・ニュース、文献紹介・書評、てがみの区分があり、*印はレフェリーによる査読の対象である。第一著者は本学会員に限られている。

編集サイドからは日本医学教育学会の運営委員会議事録、学会からの公告、会計報告、会員の動向など、会務関係事項を収録する。

各巻5号は大会号で、大会実行委員会が編集し、27巻4号からは超過ページ経費を大会担当機関の負担となった。

年に2~3回編集委員会として特集(依頼と公募)を組んでいる。また、イラスト・コラムや表紙の言葉の執筆を編集委員に、個性あふれるイラストは画家ナギ・カツオ氏に依頼している。

4. 今期の編集方針と歩み

努力目標

- 1) できるだけ多くの会員の論文や声をできるだけ早く掲載する。

*1 Journal "Medical Education (Japan)"

キーワード：『医学教育』、イラスト・コラム、カリキュラム研究会、出版物、医学教育賞

*2 Akitsugu OJIMA 岐阜大学名誉教授・『医学教育』編集委員長

- 2) 簡潔で、教育的に意義があり、明快な論文を求める。
- 3) 広報誌的役割を拡大する。
- 4) 内外に開き、国際性を高める。

- B-2・・・委員会審査
 B-3・・・再査読
 C：修正のうえ再投稿
 D：他誌へ

歩み

1994年(25巻)

新投稿規定・執筆要領を従来のものよりも詳細なものに改定(論壇や学生のページの規定枚数の短縮,執筆要領の詳細化,論文題目,抄録やキーワードの英文記載など),26巻1号に公告,3号から施行。

1995年(26巻)

- 1) 公募特集をはじめて実施した。
 「クリニカル・クラークシップ」(1号に公告,4号に)
 「学生の態度教育の見直し」(1号に公告,6号に)
 「女子医学生と女医」(5号に公告,27・2号に)
 「大綱化その後」(5号に公告)

- 2) 3号から別刷の表紙を省いた。
 理由:①白紙の表紙は開いてみないと何の別刷か不明 ②省資源 ③省保存空間
- 3) 医学教育賞の発足に伴い,その候補論文を編集委員会が選定。

1996年(27巻)

- 1) アナウンスメントやニュース欄への寄稿をアピールした。
- 2) 査読委員の増加——編集委員以外の運営委員にも必要に応じ査読を依頼する。

1997年(28巻,表紙を青色から緑色へ)

- 1) 編集委員数の増加(全運営委員と幹事に→査読委員の増加→査読加速と査読委員の負担減→査読の質の向上)
- 2) 副委員長を複数制に:必要に応じて委員長・副委員長3人の会議を
- 3) 機関誌印刷部数の増加:1,400から1,680へ
- 4) 機関会員のページの復活
- 5) 新入会員リストの速報欄の新設
- 6) 査読結果の判定様式の改善(掲載促進)

- A:掲載可・・・委員長一任
 B:条件付き掲載可
 B-1・・・委員長一任

5. 論文受付～印刷期間・採択率

95～97年10月間の実績

- | | |
|--------------------------|-----------------------------------|
| 1) 受付～受理期間
(サンプル数:60) | 平均: 124.2日
最短: 25日
最長: 423日 |
| 2) 初回査読期間
(サンプル数:23) | 平均: 21日
最短: 7日
最長: 48日 |
| 3) 受理～印刷期間
(サンプル数:57) | 平均: 128.8日
最短: 37日
最長: 281日 |
| 4) 採択率(除査読中) | 73.7% |

採択されなかった論文には,査読過程で投稿者が取り下げたものも含む。

初回査読期間平均3週間は査読者の努力の成果であるが,受付～受理期間が4か月と長いのは,査読結果に対する著者の修正～再投稿～再々投稿の期間が長いためであり,今後の改善が望まれる。受理～印刷期間の平均約4か月も予想よりも長く,短縮の努力が必要である。その原因として,隔月刊で,委員会が2か月に1回である点ならびに5号が大会号で投稿論文を載せられない点,が考えられる。上記の査読結果の判定様式の改善による掲載期間の短縮が期待される。

論文採択率は前回調査75%¹⁾とほぼ同様である。

6. 掲載区分別リスト(95～97年)

本白書の前版に94年まで収録されているので,95年からとする(表1～5)。ただし,表5の出版物リストには前回掲載分も含めた。

表 1. 表紙解説 (1995~1997, Vol. 26, No. 1~Vol. 28, No. 6)

Vol. 26 平成 7 年	No. 1.	1. 医学部と歯学部を統合した医学教育を!!	菊地 博
		2. 医学教育は所詮, 生涯教育である	菊地 博
		3. 人間の行動変容	植村 研一
		4. 医学生の見護実習	植村 研一
		5. 今どきの若い者は	原田 研介
		6. 地震と医学教育	原田 研介
Vol. 27 平成 8 年	No. 1.	1. マニュアル	細田 瑳一
		2. 情報伝達の必要条件	細田 瑳一
		3. 学習習慣の再形成	小寺 一興
		4. 学生の評価能力の評価法	小寺 一興
		5. リベラルアーツの教育	角家 暁
		6. 教育評価	角家 暁
Vol. 28 平成 9 年	No. 1.	1. 家庭医機能教育の必要性	津田 司
		2. 評価の仕方によって学習者の学習態度が変わる	津田 司
		3. PBL (problem-based learning)	伴 信太郎
		4. Teaching is learning twice	伴 信太郎
		5. クリニカル・クラークシップ clinical clerkship	神津 忠彦
		6. コミュニケーション教育	庄 司進一

表 2. 巻頭言・提言 (1995~1997, Vol. 26, No. 1~Vol. 28, No. 6)

Vol. 26	No. 1.	1. 人間社会と調和のある医学教育	望月 義夫
27		1. 教育理念の実践への難路	吉岡 守正
28		1. 良医の育成	小田島 爾夫
			【提言】
Vol. 26	4.	卒後臨床研修必修化に向けての提言	日本医学教育学会

表 3. イラスト・コラム (1995~1997, Vol. 26, No. 1~Vol. 28, No. 6)

Vol. 26 平成 7 年	No. 1.	1. 臨床医学における患者への対応術の学び	S. H.
		2. 臨床能力	S. H.
		3. 留学余話 (1) ミシガン大学	吉岡 守正
		4. 留学余話 (2) ニューキャッスル大学	吉岡 守正
		5. おたく	K. I.
		6. 反カラオケ	K. I.
Vol. 27 平成 8 年	No. 1.	1. “DOS から POS へ”	今中 孝信
		2. 植物人間を蘇らせた実践に学ぶ	今中 孝信
		3. 教えることは学ぶこと	K. K.
		4. 医学部長の評価とは	K. K.
		5. 大学院に教育学カリキュラムを	M. H.
		6. 「臨床教授」再考	M. H.
Vol. 28 平成 9 年	No. 1.	1. 教員の評価	I. S.
		2. 日本社会と教育	I. S.
		3. “Which is a Better Medical Student, Younger or Older?”	M. H.
		4. 医学部教員人事の流動化, とくに停年制と任期制について	M. H.
		5. 医学校における倫理観とヒューマニティの教育	S.S.
		6. ハーバード医学校の新しい教員選考基準	T. K.

表 4. 特集・公募特集

第26巻 (1995)
2号 問題解決型学習
4号 クリニカル・クラークシップ (公募)
6号 学生の態度教育の見直し (公募)
第27巻 (1996)
2号 女子医学生と女医 (公募)
5号 日本医学教育学会名誉会員懸田克躬先生追悼
6号 医学英語教育
6号 吉岡守正氏追悼
第28巻 (1997)
3号 Joint Meeting of Japan Society for Medical Education (JSME) and Korean Society of Medical Education (KSME)
6号 総合診療の教育

表 5. 出版物リスト

I. 機関誌	1994年版 ('90~'94)
医学教育 Medical Education (Japan)	5) 医学教育と地域保健計画
第1巻~第28巻 (各巻6号)	監訳/中川米造・岩淵 勉・堀 原一
II. 出版物	発行/篠原出版 1984年
1) 医学教育における評価と客観試験例題集	6) 期待される医師のマナー/実践をめざして
編集/文部省科学研究費	編集/日本医学教育学会
医学教育総合班研究	発行/篠原出版 1988年
発行/篠原出版 1976年	7) 日本の医学教育—改革へのあゆみ 1969~1988—
2) 医学における教授—学習	編集/日本医学教育学会
訳/吉岡昭正	発行/篠原出版 1989年
発行/篠原出版 1977年	8) 医学教育技法マニュアル
3) 医学教育マニュアル (全5巻)	監修/日本医学教育学会
監修/日本医学教育学会	編集/日本医学教育学会教育技法委員会
編集/日本医学教育学会教育開発委員会	発行/篠原出版 1993年
発行/篠原出版	9) 臨床教育マニュアル—これからの教え方, 学び方—
1. 医学教育の原理と進め方 1978年	監修/日本医学教育学会
2. カリキュラムの作り方 1979年	編集/日本医学教育学会教育技法委員会
3. 教授—学習方法 1982年	発行/篠原出版 1994年
4. 評価と試験 1982年	10) テュートリアル教育
5. シミュレーションの応用 1984年	監修/吉岡守正・東間 紘
4) 医学教育白書 (医学教育別冊)	編集/東京女子医科大学テュートリアル委員会
編集/日本医学教育学会	発行/篠原出版 1996年
発行/篠原出版	11) 医学生・研修医のための発表のしかた・文書のかきかた
1978年版 ('73~'78)	監修/日本医学教育学会
1982年版 ('78~'82)	編集/日本医学教育学会発表技法ワーキンググループ
1986年版 ('82~'86)	発行/篠原出版 1997年
1990年版 ('86~'90)	

7. カリキュラム研究会

機関誌そのものではないが、編集委員会が長年世話してきた研究会である。今回の対象期間中に下記の4回がもたれた。最近は外国の医学教育者来訪をとらえた交流が主となっている。

第60回 (1994・5・24) Clara A. Callahan
(Thomas Jefferson University)

「ジェファソン医大の卒前医学教育」

第61回 (1994・7・28) Y. P. Kapur
(ミシガン州立大学)

「Global Programs for the Prevention of Hearing Impairment, Deafness and Communication Disorder—Past, Present and Future」

第62回 (1995・7・15) Thomas J. Nasca
(Thomas Jefferson University)

「米国における卒後教育—卒後教育認定システムの実際、大学側の対応、実際のレジデントの評価法」

第63回 (1996・11・24) Richard K. Reznick
(トロント大学)

「カナダの医師国家試験と OSCE」

8. 医学教育賞

医学教育振興財団から、本学会は年次大会に50～40万円を長年にわたり、研究助成の名目で受けていた。1995年度、同財団の助成見直しに際し、それが医学教育賞に変わり、その候補者選考業務を学会に委託し、賞は大会時に授与されることとなった。選考過程と結果は以下のようである。

1995年度

名称：医学教育奨励賞 (学会が授与)

医学教育振興賞 (財団が授与)

対象論文・基準・方法：

1990～94 (Vol. 21～25) の原著を対象に、優秀論文各3編を編集委員が推薦し、上位各2名を運営委員会に推挙する。

結果：

奨励賞：伴 信太郎氏 (川崎医大)

OSCEによる「臨床入門」実習の評価 (25：327, 1994)

振興賞：細見 弘氏他 (香川医大)

入学試験成績の因子分析に関する一連の研究 (22～24, 1991～93の5編)

担当：尾島昭次編集委員長

1996年度

名称：医学教育奨励賞 → 懸田賞に

医学教育振興賞 → 牛場賞に

対象論文・基準・方法：

1990～94 (Vol. 21～25) の原著以外の論文、1995年 (Vol. 26) の全論文を対象。

懸田賞：論文を主体とし、著者のバックグラウンドならびに将来性・継続性のある程度考慮する。

牛場賞：論文を主体とするが、著者の過去と現在の活動のある程度加味して評価する。各編集委員が各3編を推薦、その結果を投票で各2人に絞り、運営委員会に推挙する。

結果：

懸田賞：森田孝夫氏他 (埼玉医大)

学生の態度教育から見たクリニカル・クラークシップ (26：4, 1995)

牛場賞：堀 原一氏 (筑波大学)

医学教育における問題解決学習による問題解決能力と創造力の教育 (26：2, 1995)

担当：田中勸選考委員長・尾島昭次編集委員長

1997年度

対象論文・基準・方法：

過去5年間 (23：1, 1992～27：6, 1996) の総説、原著、報告

懸田賞：論文を主体に評価し、著者の医学教育活動を奨励する。

牛場賞：上記論文および上記以外の論文 (たとえば特別講演・大会長講演など) や出版物を参考とし、医学教育への貢献度を評価する。

運営委員会メンバーが各2編を推薦し、会長、担当者らで1名に絞り、運営委員会の了承を得る。

結果：懸田賞は同点の2氏に授与。

懸田賞：岡村健二氏他 (筑波大学)

卒後臨床研修における研修評価のフィードバックとその有用性に関する研究 (26：4, 1995)

懸田賞：箕輪良行氏他 (自治医大)

初期臨床研修における研修内容調査票の開
発—自治医科大学卒業生の自己評価の結果
— (27:1, 1996)

牛場賞：鈴木淳一（帝京大）

Innovative Approaches to Curriculum
Changes in Medical Schools in Japan
(27:3, 1996)

担当：細田瑛一選考委員長・尾島昭次編集委
員長

文 献

- 1) Ojima A : Notes from the Official Journal of the
JSME. *Medical Education (Japan)* 1997, 28 : 144-145

* * *